



一貫コース通信

百聞は一見に如かずの続き

「おにぎり温めますか。」

東北地方のコンビニに初めて立ち寄り、レジでそう店員に聞かれたとき、戸惑いを隠せなかった。後日、東北出身の友人にその話をしたら、「？」という顔をされたことを覚えている。何もおかしなことはないと言う。ところ変われば品変わる。何十年前のことだが、強く印象に残る出来事だった。

情報技術の発展により、情報を手に入れることが格段にたやすくなった。全国津々浦々の方言、言い回しや慣習など、調べようと思えばすぐに手に入る時代である。だからその後、東海地方のある県で「昨日はたくさんの机を吊って、えらかった。」と言われたときは、「机を持ち上げるのは、重労働ですよ。」と正しい相槌を打てた。ただ、他にもたくさん方言があったはずなのに、今すぐには頭に浮かばない。百聞は一見に如かず、である。自らの経験を通して気が付いたことや確認できた情報は、伝聞のみで得た情報よりも深く印象に残るといふことなのであろう。

ところで、百聞は一見に如かず、には*続きがあることをご存知であろうか。百見は一考に如かず、百考は一行に如かず、百行は一効（果）に如かず、百効（果）は一幸に如かず、百幸は一皇に如かず、と続く。それぞれ、たくさん見るより一回自分で考えることが大切である、たくさん考えるより一回自分で行動することが大切である、たくさん行動するより一回自分で結果や成果を出すことが大切である、たくさん結果や成果を出すことより一回自分の幸せにつながるの方が大切である、たくさんの幸せにつながることも一回自らがみんなのために行動する方が大切である、ということである。

実は、冒頭の出来事は、自分に地域性についての興味を抱かせ、専門とは異なるが、大学でもっと勉強したいというきっかけのひとつになった。それがやがて社会科の教員免許状の取得につながり、興味が海外にも広がり、英語科の免許状を追加することにつながり、今では、出身地ではない福島で英語科の教員をしている。「おにぎり」がすべてのきっかけではないにしろ、偶然の出来事とその一因となっていると考えれば、本当に人生とはわからないものである。

「勉強しないから夢や目標が見つからないのだ。」とは、北野武（ビートたけし）の言葉だが、本当にそう思う。「百幸は一皇に如かず」、どころか「百行は一効（果）に如かず」も出来ていない私が言うのもおこがましいが、勝手にその言葉に付け加えるなら、「勉強も行動も考えてしないから夢や目標が見つからない。」と言えるのかもしれない。

*百聞は一見に如かずは漢書・趙充国伝に記された言葉ですが、その後、時代は不明ですが続きが作られたとされています